

総会レポート

全日遊連・第16回通常総会

5月30日／東京高輪・ホテルパシフィック東京

「遊技人口の回復」と「ホール営業の安定化」を事業推進の基本に「高コスト体質からの脱却」を強く要望

9項目の継続的重點推進事項を事業計画に「身近で手軽な大衆娯楽」の原点回帰へ

全日本遊技事業協同組合連合会＝理事長／山田茂則氏＝は本年度通常総会を開催し、①「遊技人口の回復を目指す」②「ホール営業の安定化を図る」——この2本柱を事業計画の基本に掲げ、新年度へのスタートを切った。また、事業推進の施策としては以下4点の項目を承認決議。(1)「来てよかった」と満足してもらえる「楽しい遊技環境」と、ホール内外の「快適な空間環境」を創出し、現在の顧客の確保と、離れていた顧客を呼び戻すとともに、新しい遊技客を開拓する。(2)「遊パチ」に代表される「手軽に安く遊べる遊技機」等、遊技性・多様性に富んだ遊技機の導入を推進するとともに、開発について折衝する。(3)遊技機価格の高騰を防止し低価格化を図るため、メーカーに対して強力に要請する。(4)周辺機器等のイニシャルコスト・ランニングコストの低価格化についてメーカー・販社・周辺機器業者等に折衝する——等。更に「恒常的な不正防止対策の確立」や「賞品取りそろえの充実」「営業者の賞品買取関与の根絶」「経済的基盤である共同健推機構の河上和雄代表理事は、「カジノが近々、法的に整備され発足した場合、業界の“3点方式”に対する風当たりが強くなってくることを覚悟しなければならない。その攻撃に反論し証明でき得る業態の確立こそ必要」と提言した

井置日工組理事長は「二子に即応する遊技機開発」を約束

里見日電協理事長が祝辞と乾杯の音頭を



山田理事長は「遊技人口の回復を目指すこと、ホール営業の安定化を図ること、この2本柱を基本方針に事業を推進。高コスト体質から脱却も急務」と強調



役員補充選任で新理事就任が承認された秋山照明・岩手県理事長（右）と木下栄吉・愛知県理事長。両氏とも「厳しい情勢下だが、全日遊連親和で難局打開へ」と所感

購買事業の再構築」等の9項目に及ぶ継続的重點推進事項も新年度事業計画として決議。各委員会ごとの具体的細目も承認可決し組合員の総意とした。その他、収支決算・予算関係も全て可決。

健推機構の河上代表理事「カジノ発足なら業界3点方式への攻撃・圧力を覚悟」と言及

総会冒頭には恒例事業の社会還元寄付金贈呈式も行われた。今年の贈呈先は以下の8団体。①全国暴力追放運動推進センター②財さわやか福祉財団③財犯罪被害救援基金④社会福祉法人日本点字図書館⑤財がんの子供を守る会⑥社会福祉法人日本聴導犬協会⑦特定非営利活動法人ミュージック・シェアリング⑧特定非営利活動法人女性の家サーラー。受理団体側を代表し、財がんの子供を守る会・垣水孝一理事長が「毎年の多額な寄付に、心より感謝申し上げます。各団体それぞれの各事業活動へ有意義に活用させていただきます」と謝辞。理事長挨拶で山田理事長は「旧年度は大衆娯楽としての環境整備に邁



社会還元寄付金を計8団体に贈呈。全国暴力追放運動推進センター、財さわやか福祉財団等に寄付。財がんの子供を守る会に垣水孝一理事長が代表謝辞



新富元副理事長（佐賀県前理事長）や故・神田前監事、中谷前事務局長、足立暴力団対策特別委員会前委員（大阪府前専務理事）ら退任

役員25名に感謝状を授与

進し、長年に亘る取組みが結実した1年となった」とし、健推機構の設立や遊べるP・Pキャンペーンの実施、リカバリーサポート・ネットワークや社会貢献団体機構の設立とその後の成果について報告。加えて「遊技人口の回復とホール営業の安定化を2本柱とし、この実現へ向け、これまでの高コスト体質から脱却、ホール運営のコストを新たな業態に見合った水準に合わせて低減させていくことを取組みの中心としていきたい」と強調。来賓の健推機構・河上和雄代表理事は祝辞の中で「カジノが近々、法的に整備され発足した場合、その資本系統周辺から遊技業界の3点方式に対する攻撃・圧力が懸念される。ただの攻撃に留まらず、国会においての問題視も再燃の恐れが。そのことを十分覚悟しなければならない。現状を否定はしないが、刑法に違反していない“キレイな形”と証明できる、反論できる要素こそ必要。その確立こそ業界の進むべき道ではないか」との要旨で危機感を言及した提言を行った。

警察庁・辻義之生活環境課長は、のめり込み対応や駐車場での子供の放置事故防止に関する取組み等を高く評価。